

名古屋経済大学

犬山 内久保キャンパス マスタープラン 2019



学校法人 市邨学園

名古屋経済大学

NAGOYA UNIVERSITY OF ECONOMICS

キャンパスマスタープラン策定の背景と目的

名古屋経済大学 犬山 内久保キャンパスは、犬山市内久保の地に 1965 年、市邨学園短期大学として発足、整備されました。その後、1979 年に市邨学園大学が開学、1983 年には名古屋経済大学に校名変更されました。

1965 年から 81 年頃に、本館、1、2、3、5、9、10 号館をはじめ、音楽棟、情報センターなど主要な施設が建設されました。1984 年から 98 年頃に、6,7,8 号館が建設されました。1981 年に新耐震基準が施行されましたが、それ以前に建設された建物が補強されずに現在も使用されています。耐震改修未実施建物は約 26,000㎡にのぼります。昨今、東海地震・東南海地震の発生が懸念されており、地震による被害から学生、教職員の生命・財産を守るため、安全・安心なキャンパスを実現することが求められています。

先進的な施設であった建物群も、長い時代を経て老朽化しており、設備の更新が求められます。増築を重ねたことにより、キャンパスとしての正面がわかりにくい、顔となる部分、コアとなる部分がないといった課題もあります。また、高度成長期に増加した学生数に対応した施設は、現時点において余剰となる床面積も多く、維持管理コストの増大にもつながっています。学生からは、居心地のいい空間を増やしてほしいという、要望もあります。

そこで、2023 年を目途に、耐震化率 100%を実現します。あわせて、先進的な施設機能に更新するとともに、長寿命化のための工事を実施します。また、名古屋経済大学らしい教育のスタイルに適合した、オリジナリティーあふれるキャンパスの姿を構想し、新しい魅力と価値を最大化します。

以下の 3 項目を、マスタープランのテーマとしながら、過去から未来へつながる、これから先の 50 年を見据えた「犬山キャンパス」づくりをめざします。

■伝統の上に築く未来

教育は積み重ねです。学園理念「一に人物、二に伎倆」を礎に、古き良さを活かし、その向こうに未来の良さを構想します。

■地域との調和

古墳、戦国時代の砦、半世紀以上の大学の歴史などが重ねられてきました。この環境に最適化されたキャンパスを構想します。

■アジアコアのグローバル人材育成

次代を支える、アジアで活躍できる人材をめざし、日本人学生、留学生が集う、先進的なキャンパスを構想します。



名古屋経済大学 建学の精神 一に人物、二に伎倆

マスタープランのテーマ

- 伝統の上に築く未来
- 地域との調和
- アジアコアのグローバル人材育成

教育ストラテジー

- 国際的な学問的交流
- 新しい学びの姿づくり
- 分野や専門を超えた創発的な学び
- 自発性の重視
(アクティブラーニングの推進)

経営ストラテジー

- 維持管理コストの削減
- 経営の効率化 (事務機能のワンストップ化等)
- 道筋の明確化
(キャンパスマスタープランの導入)
- 魅力的な学習環境の構築
(キャンパスの顔づくり、多様な空間)

キャンパス整備の方針

1. 耐震化率 100%を 2023 年を目標に実現
2. 施設の長寿命化と機能の向上
3. キャンパスの顔づくりと合理的な施設計画
4. 新しい学びの姿づくりと魅力的な空間づくり
5. 緑豊かで歴史的な趣きを感じる、時代に対応したエコキャンパス
6. 施設の一元管理と計画的なメンテナンス



1. 耐震化率 100%を 2023 年を目標に実現

現在、耐震改修未実施建物が約 26,000㎡あります。建築構造、経済効率、キャンパス全体構成など総合的に勘案し、2023 年を目標に、耐震化率 100%を実現し、すべての建物が基準を満たした安全な状態となります。

現有する資源を最大限活用するため、必要な建物に機能を集約し、余剰の空間は解体もしくは不利用建物とします。無駄がなくなることから、空間の密度が高まり、コミュニケーションの促進や賑わいの創出にも寄与します。また、キャンパス全体の一体感も形成されます。

2. 施設の長寿命化と機能の向上

老朽化が激しく、機能的な問題や安全上の懸念がある個所も散見されます。耐震化工事に併せ、施設の長寿命化工事を行います。屋根防水、外壁の塗装や断熱化、サッシの交換やペアガラス化、給排水設備や電気、空調設備の更新を行います。

これらにより、空調エネルギーの削減とともに、快適性の向上を実現します。また、トイレなど、学生の印象に大きな影響を与えるスペースは、魅力的な空間となるよう配慮します。

3. キャンパスの顔づくりと合理的な施設計画

増築を重ねてきたことにより、キャンパスの正面がわかりにくく、ホスピタリティも十分ではない状況となっています。そこで、南ゲートを来訪者、駅からの徒歩者向けのエントランスとして整備します。また、バスは北ゲートから進入するよう動線を分離します。バス待合のステーションを整備します。また、二輪車用の駐輪施設を北ゲート付近に整備します。

キャンパス全体を南北に接続する渡り廊下を設け、悪天候でも各建物にアクセスしやすくなります。

教育、研究にかかわる機能を、1、3、6、7 号館に集約します。また、事務機能をコミュニティプラザに集約することにより、学生へのワンストップ対応とともに、事務機能の効率向上と無駄削減を実現します。

4. 新しい学びの姿づくりと魅力的な空間づくり

アクティブラーニングなど、学生とのインタラクティブな教育を行いやすい教室空間の実現を目指します。情報インフラや ICT 設備を充実させ、情報デバイスを活かした教育を行えるよう配慮します。

みんなで使える学生の居場所作り（ラーニングコーナー）を行います。領域や学科の枠を超えた交流と研究の推進を図ります。

5. 緑豊かで歴史的な趣きを感じる、時代に対応したエコキャンパス

高効率設備機器の導入、断熱材、ペアガラスの採用など、省エネと環境負荷低減を実現する機能を盛り込みます。

地域の木材や建築素材を活かした、犬山らしい、東海地方らしい洗練された建築をめざします。

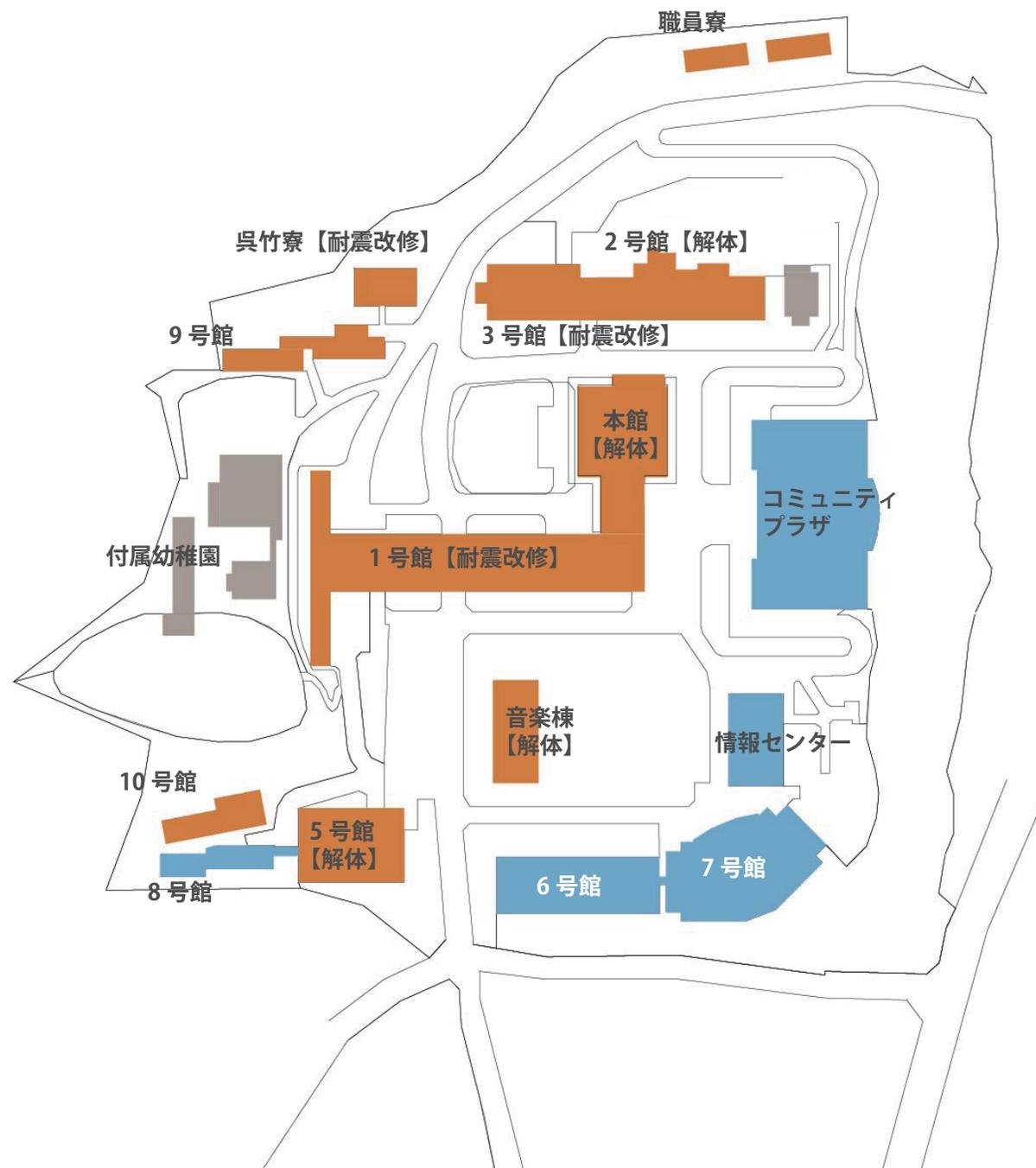
6. 施設の一元管理と計画的なメンテナンス

これまで施設情報が十分に管理されておらず、定期的なメンテナンスが行われてきませんでした。また、施設利用状況についても無駄が多い状況にあります。

維持管理コストの適正化をはかるため、施設情報の一元管理を行うとともに、無駄を低減した効率的な運用を行える体制を整えます。



現状：耐震改修未実施建物 約 26,000㎡（赤塗）



■耐震改修未実施建物

本館：Is値が特に低く、耐震補強方法が特殊であるなどの理由から解体します。

1号館：比較的補強が入れやすく、プランは教室などとして活用しやすい。また蓄積された大学の歴史を体感できる。耐震改修を行います。

2号館：3、4階の平面が特徴的であり、耐震補強、活用面で課題があるなどの観点から、解体とします。

3号館：比較的補強が入れやすく、教室などとして活用しやすい。耐震改修を行います。

5号館：解体してキャンパスの玄関口を整備することを検討します。

音楽棟：解体してコミュニティゾーンとして整備することを検討します。

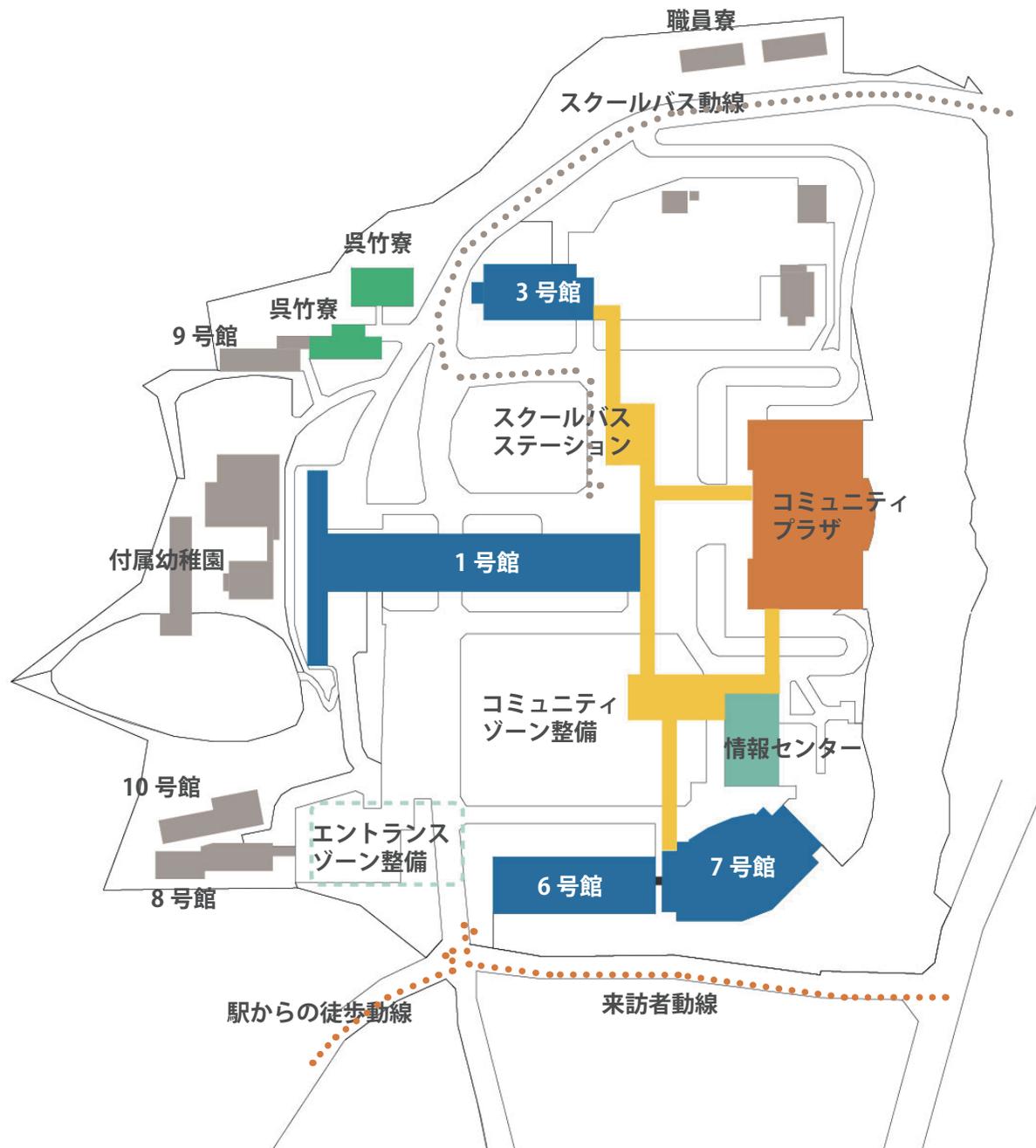
■耐震改修実施建物

6号館：空調設備が更新時期を迎えている。一般用エレベーターの設置が求められる。

7号館：外装の一部に補修が必要。

情報センター：外装等の改修が必要。

コミュニティプラザ：外装の一部補修が必要。



■教育研究機能

1、3、6、7号館に教育・研究機能を集約します。1、6号館は、講義室や実習室などを複合的に配置し、学生と教員のコミュニケーションを生み出しやすい雰囲気をつくります。

7号館は、講義室に特化させることで、管理しやすく、省エネにもつながる運用を可能とします。

3号館は、音楽や造形など実習機能をもたせた施設とします。

■事務+交流機能

コミュニティプラザ2階に事務機能を集約することにより、学生へのワンストップ対応とともに、事務機能の効率向上を実現します。

1階は学生食堂として、より魅力的な交流空間となるようアレンジを行います。

■交流機能

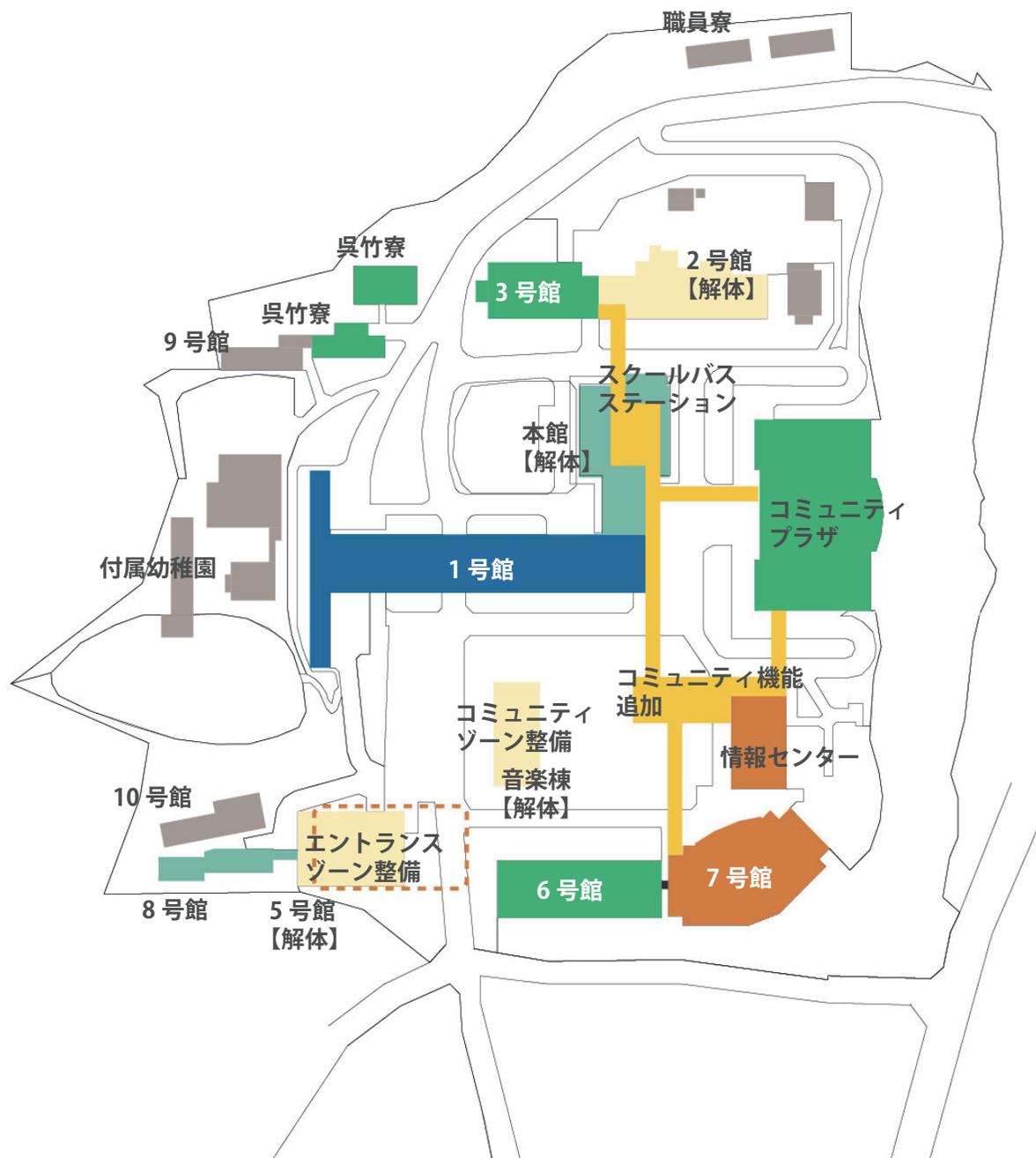
情報センターに、コンビニ、書店を検討します。中庭を見渡す空間にラウンジなどを設け、名経大らしい中庭の森の眺望を楽しめる空間となります。

■渡り廊下、バスステーション

渡り廊下により、南北の各種機能を結びつけます。これにより、雨天でも建物間の移動が行いやすくなります。日よけ、風よけのあるバスステーションを設けることで、夏季、冬季におけるバス待ちのストレスを緩和します。

■学生寮（呉竹寮）

耐震改修を施し、安全な施設となります。



■第1期

1号館の耐震改修工事、長寿命化工事を行います。
築60年と最も歴史があり、床面積も広いことから大掛かりな工事となります。

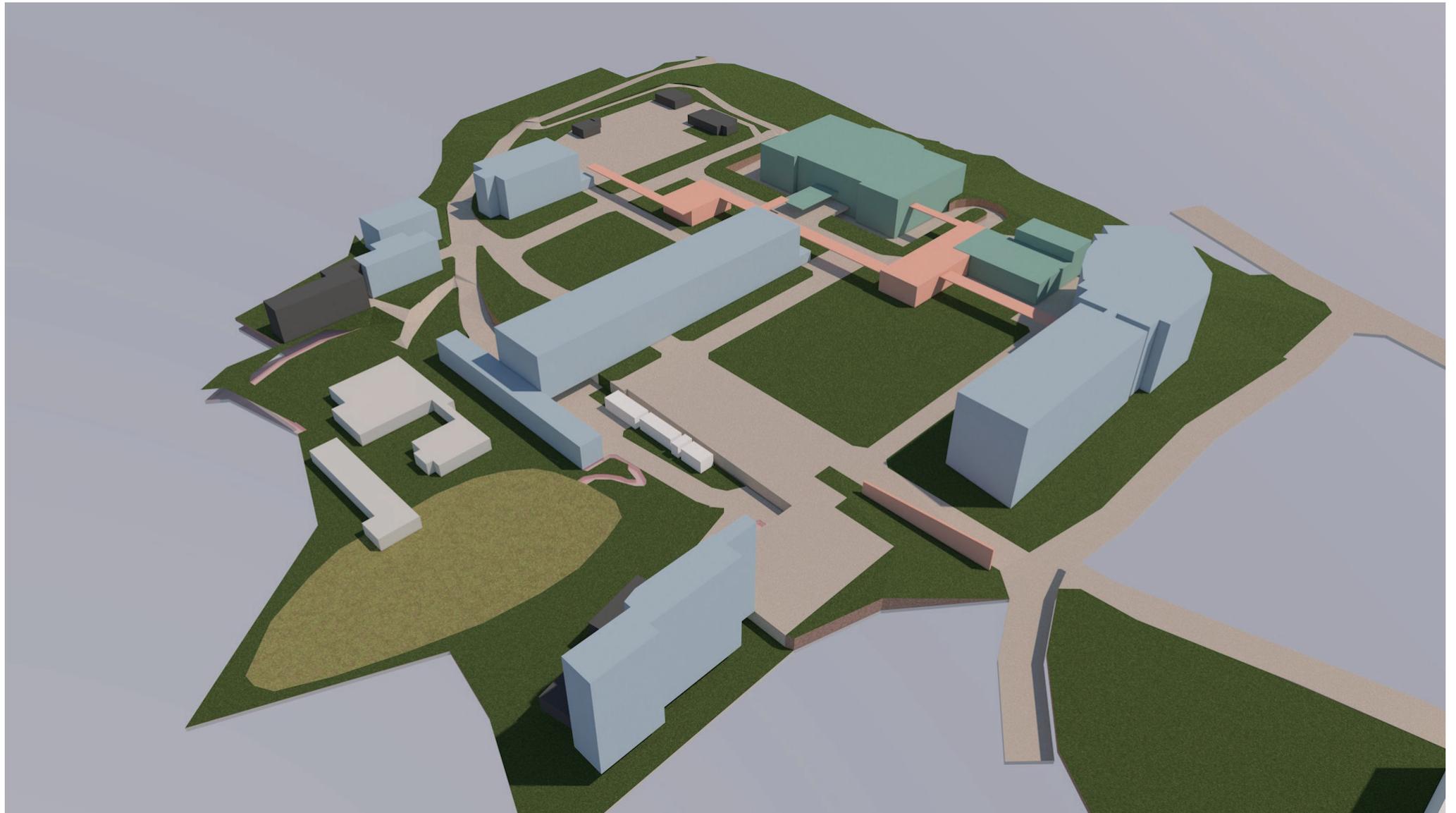
■第2期

- 3号館の耐震改修工事、長寿命化工事を行います。
- 呉竹寮の耐震改修工事を行います。
- 6号館の空調工事と内装改修、EV設置工事を行います。
- コミュニティプラザ2階に事務機能を集約する工事を行います。
- 情報センターの改修工事を行います。

■第3期

- 7号館の改修工事を行います。
- 本館、2号館、5号館を解体する工事を行います。
- 渡り廊下、バスステーションを設置する工事を行います。
- エントランスゾーン整備工事を行います。
- コミュニティゾーン整備工事を行います。
- 外構工事、サイン工事を行います。





時代に対応した快適な学習環境の創出と長寿命化

教育研究の質的向上のため、スペースの集約、再配分を行います。各所にラーニングコーナーを設け、学習環境を充実させます。また、学生数の変化にもフレキシブルに対応できるものとします。あわせて、空調設備や給排水設備の更新、建物の長寿命化工事を行います。断熱性の向上や高効率機器への更新はランニングコストの低減につながります。また、エレベーター設置やトイレ設備の充実により、機能性とバリアフリー性を向上させます。



屋上防水

屋上防水層が劣化している場合には、防水を更新します。併せて外断熱を施します。また、高架水槽を撤去するなど、建物の軽量化による耐震性能の向上を図ります。

トイレのステキ化

既存のトイレを移設し、利用状況に応じた男子・女子・多目的トイレの必要数を確保します。暖房洗浄便座を設置し、清掃しやすい床材とするなど、快適性と衛生性を高めます。また、パウダールームを設置するなど女子学生に喜ばれる工夫も施します。

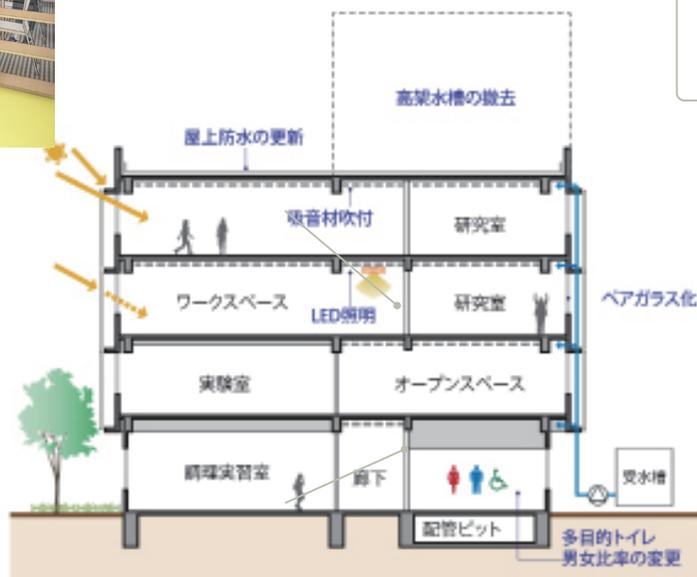


スタディーコーナー

学生たちが創造力をはぐくみ、能動的に関わり、議論を通して深い学びを得るために、学習スペースをよりオープンな姿とします。複数の研究室単位や、場合によっては分野を超えて、共に学習する環境を想定します。主に使用する学科の専門分野を想定しながら、しつらえを検討します。

一般講義室

改修対象の講義室は、既存の天井材や設備機器を一旦取り外します。新たな空間は、コンクリート構造を部分的に活かした空間となります。左官材料や木材などを用いた、温かみのあるスタイリッシュなデザインとなります。黒板はホワイトボードに交換することを基本とします。また、プロジェクターやスクリーン、WI-FIなどICT環境の整備も行います。



二次部材の耐震対策

古い天井材、古いサッシ、コンクリートブロック間仕切り壁などの地震時の脱落・転倒を防ぐことができるよう、取替などを行います。

バリアフリー・セキュリティ対策

エレベーターの設置を行います。また、スロープや手すりなどを適宜設置し、バリアフリー性と利便性を向上させます。また、電子錠や防犯カメラの導入など、セキュリティー性能と利便性の向上を図ります。

断熱と気密化

老朽化が激しいサッシを取り換え、ペアガラスで断熱性や気密性を高めます。外壁に断熱を施すことで、快適性と省エネ性が向上します。

給排水・ガス設備

既存の受水槽を効率的に活用します。交換可能な既設管は更新します。

電気設備

古い配線の更新を行います。また、照明器具はLED機器に更新します。

空調設備

古い空調機は省エネ型の最新機種に変更することで、快適性を高め、ランニングコストの低減に寄与します。

設備全体のメンテナンス性を高めます。

各種建物の基本計画

■教育研究機能

1、3、6、7号館に教育・研究機能を集約します。1、6号館は、講義室や実習室などを複合的に配置し、学生と教員のコミュニケーションを生み出しやすい雰囲気をつくります。7号館は、主に講義室を配置し、3号館は主に実習室を配置することを検討します。

●1号館

- ・耐震改修工事および長寿命化工事を行います。
- ・地域住民や幼稚園との相互利用を考慮して、多目的トイレ、幼児対応トイレを充実させたユニバーサルデザインとします。
- ・講義室、実習室、演習室、研究室を適切に配置し、各所にラーニングコーナーを設けます。
- ・歴史ある建物の魅力を活かしながら、各所に県産材などを活用し、魅力ある空間を構想します。
- ・ICT環境の整備、管理機能の向上を図るとともに、省エネの実現にもつながる対応を行います。

●6号館

- ・長寿命化工事、エレベーター設置工事などを行います。
- ・バリアフリー性能、快適性を向上させる改修もを行います。
- ・講義室、実習室、演習室、研究室を適切に配置し、各所にラーニングコーナーを設けます。
- ・緑に囲まれた建物の魅力を活かし、中庭が見えるラウンジを設け、魅力的な空間とします。各所に県産材などを活用を構想します。
- ・ICT環境の整備、管理機能の向上を図るとともに、省エネの実現にもつながる対応を行います。

●3号館

- ・長寿命化工事、エレベーター設置工事などを行います。
- ・バリアフリー性能、快適性を向上させる改修もを行います。
- ・講義室および音楽や造形などの実習室、会議室などを適切に配置します。
- ・各所に県産材などを活用し、魅力ある空間を構想します。
- ・ICT環境の整備、管理機能の向上を図ります。

●7号館

- ・長寿命化工事、内装工事（キャリアセンター跡地に講義室等）などを行います。
- ・7号館を講義室に特化させた運用が可能となるよう検討します。
- ・ICT環境の整備、管理機能の向上を図ります。

■事務+交流機能

●コミュニティプラザ

- ・2階に、学務総合センター、国際交流センター、キャリアセンター、総務などの事務機能を集約することにより、学生へのワンストップ対応とともに、事務機能の効率向上を実現します。
- ・複合的な建物の特徴を活かしながら、各所に県産材などを活用し、魅力ある空間を構想します。
- ・1階は学生食堂として、より魅力的な交流空間となるようアレンジを行います。
- ・ICT環境の整備、管理機能の向上を図ります。

●情報センター

- ・長寿命化工事、内装工事、増築工事などを行います。コンビニ、書店、本部機能の配置などを検討します。各所に県産材などを活用し、魅力ある空間を構想します。
- ・中庭を見渡す空間にラウンジなどを設け、名経大らしい中庭の森の眺望を楽しめる空間を構想します。

●交流ゾーン整備（渡り廊下、バスステーションなど）

- ・渡り廊下などにより、南北の各種機能を結びつけます。これにより、雨天でも建物間の移動が行いやすくなります。
- ・日よけ、風よけのあるバスステーションを設けることで、夏季、冬季におけるバス待ちのストレスを緩和します。
- ・各種機能を結びつけながら、交流機能を高められるような建物の整備について検討を行います。情報センターを拡張して中庭に面したコミュニティ機能の拡充を図ります。

●エントランスゾーン整備

- ・南門を中心に、来訪者の印象を高め、利便性を高められるようなエントランスゾーンの整備を構想します。

■学生寮（呉竹寮）

- ・耐震改修を施し、安全な施設となります。

設計と工事のスケジュール（想定）

1 期

2 期

3 期

設計

- 3 号館
(耐震改修・長寿命化)
- 呉竹寮
(耐震改修・長寿命化)
- コミュニティプラザ (改修)

- 6 号館 (改修)
- 7 号館 (改修)
- 情報センター (改修)
- 渡り廊下 (新設)
- コミュニティゾーン
- エントランスゾーン

工事

- 1 号館
(耐震改修・長寿命化)

- 3 号館
(耐震改修・長寿命化)
- 呉竹寮
(耐震改修・長寿命化)
- コミュニティプラザ (改修)
- 情報センター (改修)

- 6 号館 (改修)
- 7 号館 (改修)
- 渡り廊下 (新設)
- コミュニティゾーン
- エントランスゾーン



1 号館



3 号館



コミュニティプラザ



6 号館



7 号館



情報センター



コミュニティゾーン



エントランスゾーン